

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年5月13日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.12】

JR総連 JR労研 革マルの関係は真っ黒！

では、「JR労研」の役員は誰が務めているのだろうか。革マル派機関紙「解放」によれば、2000年11月に革マル派に「拉致・監禁」されたJR総連OB組合員の坂入充氏は、九州労（JR総連：当時）のJR九州労組（JR連合）への潜り込み戦術（2000年10月）の失敗について「大討論集会」で自己批判した話の中で次のように述べたという。（「解放」2000年12月20日号外）

九州労組合員を養殖組合に売り渡し、動労以来の戦闘的労働運動の伝統をぶちこわしてしまった裏切り行為の全責任はJR労研中央幹事会事務局長である私と事務局メンバーである船戸、田岡、新潟の松崎、および総連委員長小田にあります。この犯罪行為についてJR戦線およびすべてのたたかう労働者同志に心からお詫びし、自己批判いたします。

「JR労研」中央幹事会事務局長を語る坂入氏とは、真国労（国労内革マルグループが国鉄改革の直前に国労を脱退して結成した労働組合 宗形明著「JR東日本労政『20年目の検証』」）の出身で「自然と人間」（当時はJR総連発行の月刊誌、2002年7月より「自然と人間社」が発行）の事務局員を務めていたJR総連OBだ。そしてJR総連は、拉致事件に対し、革マル派を告発し、「解放」に記載された「南雲」なる人物が坂入氏だと自ら訴えた。この南雲（巴）氏は、何と、「解放」（2000年6月26日1625号）に「『動労型労働運動』の伝統を甦らせよ」との大論文を掲載している人物だ。

「JR労研」中央幹事会事務局長は革マル派大幹部か！

本間氏は「週刊現代裁判」の証人尋問で、「JR革マルではマングローブになると「解放」に論文を載せる可能性が出てくる」と証言した。大論文を掲載する人物なら、南雲（坂入）氏はマングローブ以上のクラスの大物の幹部黨員であったことは間違いない。革マル派は「解放」で「古参党员・南雲との討論」「南雲ははずかしながら古参党员の一人である」など、坂入氏は「古参党员」であると繰り返し述べている（2000年12月11日1648号）。

なお、「JR労研」事務局メンバーとして名前が挙がった船戸氏は東海労（JR総連）副委員長、JR総連組織局長を歴任したOB、田岡氏は本情報（No.8）でJR総連の革マル派カンパを集約して党中央に渡していた人物、新潟の松崎氏とは、現在はあの松崎明氏とは対立している元東労組新潟地本副委員長で、「さつき企画」の役員を務めていた人物だ。

さらに、東労組内の本部と新潟・長野グループが対立して以降、「元新潟JR労研代表幹事W氏」から「東日本JR労研代表幹事千葉勝也氏」に宛てたという手紙（2003年8月27日付）の存在も明らかになっている（宗形明著「JR東日本労政『20年目の検証』」p.150）。千葉氏は、現在の東労組委員長で、当時は書記長だった。単組の中枢人物が代表幹事であるというなら、「JR労研」は、事実上、東労組と一体であると言わざるを得ないだろう。

さらに南雲（坂入）氏は、九州労の「潜り込み戦術」はJR労研事務局で決定したと述べている（「九州労大量脱退事件」については改めて検証する）。これが事実なら、「JR労研」は、「サークル」どころの存在ではなく、JR総連と単組の運動を実質支配する、きわめて強大な間組織ということになる！ JR総連は「JR労研」の実態を自ら説明せよ！